

文芸 さくらがわ

俳句

【桜川市岩瀬「萩」俳句会】

夕星のそつと連れ来し夜の秋 小林 啓治
地震あと崩れしままの墓洗ふ 萩原 勅彦
つくつくしまだ暮れ残る弥陀の空 藤田 凡鐘
つぎはぎの命かかえる酷暑かな 小林 フク
暑に耐える齢に夕べの風やさし 三代 みちよ
夏そば打ちて家族の会話はづむなり 渡辺 いし
節電に暑さをしのぐゆとりなし 入山 ひろ子
智恵の輪のほどけぬままに盆果てし 若色 寿美女
ゆつくりと登る山道くづの花 金田 とう女
肩車されてワッショイ祭りの児 永瀬 ちい
蜘蛛の囀を透けし朝の光かな 細谷 充女
原莞の風評うすれ出穂揃う 萩原 きしの

【茂山俳句会】

情念がぐらり焦げつく百日紅 海老沢 静夫
百日紅手術の覚悟はできてゐる 君島 真理子
記憶より火の見の低き葛の花 吉原 秀子
岩清水ありてともかく腰下ろす 田崎 信子
訪ねゆく目当てに白き百日紅 大関 くに
診察をする香水の胸開けて 宮本 芳江
眠れば夢戻り来る合歓の花 鈴木 ノブ子
夏日傘母に似てきし歩みかな 松崎 いま
退屈を生きてきらきら金魚かな 植田 祥雲
滝の軸掛けて茶室に風を呼ぶ 笠倉 陽子
神威岬灯台眩し雲の峰 今井 繁子
百日紅くすぐられては花ふやし 海老沢 幸子
風通す母の形見の夏羽織 竹林 てる
蜘蛛の巣や玄関先に張らずとも 鶴見 菊江
百日紅星の数ほど咲き競ひ 金子 弘毅
万緑やはばかるごとく昼の月 飯山 昭

【やまと早蕨歌会】

いつの日か生垣に宿る鳩一羽ごろすけごと
と鳴いて友呼ぶ 笠倉 仰雲
宝石の並ぶが如くミニトマト日色づきて
光増しをり 木藤 とみ
芭蕉の葉猛暑に耐えて泳いでる今年のバナ
ナの期待はいづこ 佐藤 悦子
孫や子の温き介護に支えられ米寿の祝宴冬
陽やわらぐ 田中 きみ
栗の椽実を落としては反り返り守るがごと
く栗に寄り添ふ 中原 すみ子
十六夜の月に萱草描きゆく時にあたかも葉
の擦れ合ふ音 中島 龍子
父の日に次男夫婦よりの蟹「うまい」と笑
まふ君を忘れじ 北条 正子
ひっそりと狭間に咲きし釣舟草つめたき水
の流れにゆるる 皆川 米子
新米の放射線量はかるとうニュースに暗く
出穂の田に佇つ 高久 真斉

俚謡

【さくら俚謡会】

まつり太鼓に調子を合わせ踊る二人のあつ
い夜 つく志 輝美
白いお舟に揺られて揺れて月はどこゆく夢
の国 一木 みどり
子等が丸めた月見の団子家族団欒祝う夜
岩瀬 きみ子

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111-75-3111、内線1268

広報 さくらがわ